

# 1 まちづくり懇談会 東野

日時：平成 29 年 12 月 15 日（金）午後 7 時～8 時半

場所：東野コミュニティセンター

---

## 4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■市長 東野の人口は平成 17 年 1801 人、世帯 550。東野は世帯は増加しており、平成 28 年に 1714 人、615 世帯。減り幅は少ない。恵那市内では平成 17 年から全体で 9.6%減で、東野は 4.8%減。ここより少ないのは大井町で、東野は 2 番目、3 番目は長島。ほかの地域に比べて減っていない。ただ、各自治会では、若い人が減った、子どもが減ったと感じると思う。出生数は平成 18 年 14 人、それ以後、8、18、14、24、15、17、18、9、19、17、7。少し減り始めている。何とか持ちこたえてもらいたい。ほかの地域では年によっては 0 のところもある。東野はよく頑張っている。結果的には 50%の減になっている。

東野の事業について。今年 3 月に完成した袖畑笠作線と清水白坂線の道路整備は、1580 m、11 億 7 千万円。大変通りやすくなったと思う。東野のこの建物の改修も来年度予定されている。駐車場の整備等も含めて施設のリニューアルが予定に入っている。

東野小学校で、東野の魅力を満喫する 3 つのクラブ活動があるそうだ。僕は勉強不足で知らなかった。歌舞伎クラブ、郷土クラブ、自然探検クラブ。東野の歴史を引き継ぎ楽しむためのクラブ。体験を通して東野の魅力と生活を楽しむことを学んでいる。これは大変重要だと思う。東野にこれから子どもたちが戻ってこようとか、ここに残って東野を支えていこうと感じるためには、東野のことを学ぶことが大事だと思う。

そして、私もときどきお邪魔していたふれあい「キッサ虹」は平成 27 年スタートでメンバーが 13 人、毎月第 2 木曜日と第 4 金曜日で、下のロビーで行われている。東野の特徴的な活動だ。

食事サービス事業のアヤメ会は、平成 2 年からスタートされ、ふれあい弁当の宅配も結の会で行われている。これも知らなかったのは申し訳なかった。

東野ほたる祭りは平成 13 年スタートで 17 回目を迎えたそうだ。私も今年の夏にお邪魔した。多くのお子さんに楽しんでいただいている。

夏祭りは、実行委員会とはいえ、振興会や自治会の皆さんが大変ご苦労されてやっている。昭和 57 年から 36 回行っている。

歌舞伎は、今年私も出た。10 月 22 日だった。来客数は公式発表で 400 人。皆さんにも

お楽しみいただけましたと思う。来年引き続き頑張っていきたい。

東野ふれあい音楽祭。今年お邪魔した。11月の初め。平成9年から22回。ほかの地域にはない特徴的な音楽祭。プロが毎回来る。どうしてあんな人が毎回来るのかとほかの地域の人が不思議がっている。毎年続けていけるといいと思う。

地域の中にある資源の大きなものは、一つは阿木川ダム。オープンして30年近くになり、大変親しまれている。11月3日にメモリアルマーチというウォーキングがあり、堤体を歩いて上られる。地元の人がフレンドリーを運営している。平成17年から活動しているのもう12、3年になる。多くの皆さんに助けていただき、私もときどきお邪魔している。もっと伸び代があると思う。

保古の湖。起工式が1921年。あと4年で100年。1933年、昭和8年に完成した。農地面積が117町分から217町分に、100町分増えた。恵那市の農業を支える大きな転換期になった。ここが観光地として東野の観光の目玉になっている。

国民宿舎恵那山荘は平成25年に県から恵那市に移譲された。宿泊者が平成28年に約5千人、日帰りが2600人。大切な観光資源だ。

キャンプ場が根の上にある。保古の湖キャンプ場は平成28年に2511人に利用いただいている。デイキャンプは879人。キャンプ場は大変大事な施設だと思う。飯地、串原では、山荘や保古の湖のキャンプ場を見て、こういうふうになりたいと、今立ち上がってきている。これからも先頭を走ってほしい。

耕作放棄地。12月7日の岐阜新聞で、「健康食育で農地再生。有限会社東野さんが黒にんにくを商品化」。東野さんは従業員が4名。恵那市の中でも特別に頑張っている会社の一つだ。

恵那市の農業。東野の農地は217町歩、うち耕作放棄地は19町歩で、8.8%で、恵那市の平均よりずいぶん低い。東野さんが頑張って耕作放棄地を活用されているという効果もあると思う。恵那市の中でも東野は頑張って農業に取り組んでいる。

## 5. 意見交換

■司会 意見は1人1つとする。簡潔に具体的にお願いする。8時20分ごろ終了する。

■千藤 山のこと。先人が植えた木が、補助事業で手入れされている。搬出間伐が主で、東野の山も急で危険地域に指定されているところもあるし、市長の家も赤が黄色になったがいつ山が抜けて来るか分からない。谷では木が育たないので搬出間伐の範囲に入らないということなので、国も環境税で1人1000円、県も1000円ずつになるが、切り捨て間伐はそういうものがなければできないので、危険地域の山を、治山事業で堰堤も造れるが、自然の山で行くということでその山の手入れをして切り捨て間伐をなるべくそういうところを優先にやってほしい。

それと、林道整備は県単で1千万円ぐらいの予算で15%の地元負担金で舗装、側溝整備などがあるが、市でももう少し面倒を見ていただかないと、森林経営も利潤が出ていないので、15%より地元負担金が下がるようお願いしたい。

2つ目は、29年度で国の減反政策が廃止になる。その対策と、農家に分かりやすい説明をしてほしいことと、国が税金を使って守り続けてきた種子法が廃止される。そうすると、大手の企業が買い占めて高いものを買わないといけなくなるし、売ってくれないという制限もあるので、その辺を説明いただきたい。

■市長 農林担当の地元の光岡部長がいるので部長に話してもらおう。

■農林部長 山の管理、森林経営について。東野に以前からいる人は森林組合に加入している人が多いと思う。森林組合で施業するとき、今は搬出に非常にお金がかかるので、森林を昔のように皆伐して山の材を売って東野の公共事業にあてたり、東野の皆さんの収入にあてることがなかなかできない。そうした中で、山は、皆さんもご存じのように、木を生産するだけでなく、水源かん養や自然の産物を出す、多様な動植物の活動の場、私どもが山を楽しむなど、多様な機能がある。生産をもっぱらやるには、経済的に向かないが、放置したら山が荒れる。今県では、清流の国森林環境税を、1人1000円ずつ、市県民税を賦課するときに出してもらっている。それを財源として、山が生産がうまくいかないところを環境保全林に位置付け、切り捨て間伐を実施する場合は、地元負担はなしでやっている。東野でも、切り捨て間伐は、今年度は東野上組生森の山で、番屋と花無山で25.26ha実施している。これにより、生産林としては出すことはできないが、山の保全はかなう。併せて、東野地域からの要望の中で、地蔵ヶ平、定連寺川の上流の治山事業も、県に要望を地元の人と一緒にして、今年は調査設計、来年度工事という予定になっている。山は多面的に保全することが今の流れだ。

林道は地元の負担を基本的にお願している。予算に限りはあるができるだけ地元の要望に応じていきたい。今年は下組生森の関係で白坂林道を390m舗装を支援した。来年度も約400m予定している。地元の負担もあるが、順にやる。山は林道もあってやっていくが地域の協力がないと進められない。場合によっては土地を協力いただくこともある。市、県、国の事業に協力をお願いしたい。

減反。米は生産調整を今までしてきたが、平成24年に、29年度で生産調整は廃止することが決まった。この辺の情報が皆様方にしっかり伝わっていないのでご質問があったのだと思う。29年度までは皆様に、面積率で53%を作っていたいただき、残りはほかの作物を作っていたことになっていた。30年度からはそれが撤廃されるかというところ、生産調整の目的は米価の安定で、これを一気に外すとまた米価が崩れる。今はある程度安定してもち直してきているところがまた安くなってしまう。今農地の集積もして大規模化もしてきているが、農家の経営に影響がある。全国で3つの県を除き、ほとんどの県が生産調整

を自主的に続けると表明している。全体の耕地面積が減っている。人口が減っているのに米の生産高が減っている。来年度の生産調整としては、今年の58%にすると恵那市の農業再生協議会が中心になって決めた。もう少ししたら総会を開いて決定し農家の皆様にご案内をする。ただ、29年度までは生産調整によって1反7500円の交付金が出ていたのが、30年度からなくなる。これは国の施策である。岐阜県としては、各市町村に割り当て目標をもって、各市町村で面積換算率で出している。

種子法。多くの方には聞き慣れないと思う。主要な作物について種子を安定的に供給する、安全な種子を供給するというで作られていた法律だ。それが今年廃止された。種子法の対象となるのが、米、麦、大豆。これがなくなると、大企業や外国で作られる種子を買わないと安定的な供給が得られないのではないかという懸念があるということだが、岐阜県としては種子法がなくなっても当分の間が今の種子供給体制を維持しようと考えているという。ただ、全国的にも不透明なところがあり、今年も新潟県、福井県で、新しいブランド米ということで、米の種子を品種改良しているのは、種子法があつてこそそのことだが、世界の兆候としては種子をいろいろな形で供給する企業が多くあるので、全国的にも1つの県が種子供給をやめるということになると、1つ欠け2つ欠けということもあるのかなということで、私どもも県に対しては当面安定的な種子の確保と供給を県としてしてほしいと言っている。

■千藤 切り捨て間伐は災害の起きるようなところでなるべくやってもらいたい。それと、今までは飯沼で災害がないので切り捨てをやっているが、危険地域指定で真っ赤になっているところを優先してやってもらいたい。そうすると自然のままでもいい。要望だ。

林道は15%よりなるべく安くしてほしい。要望だ。

■遠藤・中之島 はたらく、たべる、くらす、何となく分かったような気がする。人口増に対するおもてなしというのは何となく分かるが、人口増がない限り、今の5万1千人の取り合いになる。僕も企業をやっている。周りでは人手が足りないところがある。東野も人口が変わっていないというが、うちの周りでは交通安全に立つと子どもが2人、3人しか歩かないことがここ何年か続いている。白坂の方では人口が増えていると思う。正家で区画整理で60戸の住宅を建てるといふ。僕は東野に来て40ちょっとになるが、田んぼを持っていない。茄子川でも住宅がいろいろかかっている中で東野も後れを取らずに、人口増加に対しては、住みよいい場所で学校も近く街も病院も何もかもあるので、それにつながる対策はあるか。

■市長 いくつかあるが、大事なことを少し申し上げる。東野の人口は若干減っているが世帯が増えているということが大事だ。上矢作、山岡、飯地などでは世帯そのものが減っている。人口の減り幅が少ないうちは世帯が増える。世帯分離といい、今は老夫婦とお嫁さんが一緒に住まず世帯が分かれるようになった。東野は増えている。空き家があまり出

てないと思う。もっと人口が減っているところではどんどん空き家が増えている。人口が減り世帯はもっと減っている。東野は大井に次いで人口の減り幅が少ない。東野は地域に根差すような取り組みをしていることが一つと、白坂は人が増えている。手に入る家、宅地があることが原因だと思う。そういう意味では、便利なところなので、宅地の供給があれば人の住む可能性はあると思う。ただ、市がやるのではなく、東野の皆さんがこういうところで開発をしたらということをお話し合いをすることだ。地元の所有者も含めて、協力していいという話があれば市として相談に乗る。コンパクトシティという言葉もあるように、不便なところから便利なところに人が移る傾向もあるそうだ。可能性として東野の開発も考えてもいいと思う。

■南天王前・伊藤 10年後にリニアが来る。その後東野はどうなるか。

■市長 昨日、今日と東京に行っていた。東京から東野まで今は3時間半から4時間。リニアができると品川から美乃坂本まで40～50分。家に帰るのに1時間だと思う。私たちが東京に行くにはすごく近くなる。1時間だと今は名古屋までだ。同じ気持ちで東京品川辺りに行ける。東京の人からは1時間で伊豆高原、那須高原、日光に行けるが同じぐらいの距離に恵那、東濃が来る。日光より恵那に行こうと言ってもらえるために何ができるか。ここにどんな御利益があるか、おいしいものが食べられるか、いい景色が見られるか、ということがあれば、来てお金を落とそうと思う。そこは、私たちの頑張り次第だ。頑張った分だけ可能性があるので、やれるだけのことはやってもいい。阿木川ダム、明知鉄道もあり、根の上、保古の湖もある。こういうところをうまく活用して避暑に保古の湖に来てくださいということもあると思う。そのときどれだけ素敵な場所になれるかということはこの10年で考えていきたい。夢のある話をしたい。

■司会 これで意見交換を終了する。広報折込のはがきでも意見、提案を受けている。地域計画への意見はお手元の用紙に記入して受付の箱に入れてほしい。後日振興事務所に提出してもいい。

## 6. 市長お礼のあいさつ

■市長 金曜日のお忙しいときにありがとうございました。多くの方々にご支援賜り1年何とかやってこられた。今日の懇談会で言えなかったことは後から寄せてほしい。所長の小木曾は私の後輩だ。いろいろな意見をいただきたい。引き続き私も頑張っていく。

■東野地域自治区東野開発振興会副会長・千藤あきまさ 多くの皆さんに参加いただいた。貴重な意見、提案をありがとうございました。市の関係者の皆様、貴重なご指導をいただきありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

東野は今後少子高齢化に立ち向かわなければならない。幸い東野から市長が誕生し、千藤市議もいる。今後東野が少しでも良くなるために、皆様方で心を一つにし新しいまちづ

くり積極的に取り組むことが大切だ。今後ともよろしくお願いいたします。

[ 閉 会 ]